

バイタルサイン 測定マニュアル (手順・留意点)

令和3年9月策定
名古屋出入国在留管理局処遇部門

バイタルサインとは？

「生命徴候」

一般的には「体温・脈拍・血圧・呼吸・（意識）」の4（5）要素

生命活動が正しく行われているかどうかを判断する指標

容易に測定でき、身体の異変を速やかに反映する極めて重要な指標

測定時における基本的事項

- 測定実施前に使用する機器の作動を確認
- 測定の順番に明確なルールなし
- 状況や対象特性により変化

通常時は

意識→体温→血圧・脈拍→呼吸・動脈血酸素飽和度

緊急時は

意識→呼吸→動脈血酸素飽和度→血圧・脈拍・体温

- 測定値はリアルタイムで記録。
- 測定実施後はアルコール等で拭いて消毒

各測定値に異常が見られた場合、直ちに看守責任者等に報告の上、医療職員又は愛知県救急医療情報センターに相談すること。

体温測定の手順（目安：36.0～37.0度）

1 活動直後でないかを確認

必要に応じて10～30分程度の安静後に再開する。

測定は、原則毎回同じ側。
横になって測定する場合は上側を選択。
麻痺がある場合、どちらでも可。

2 脇の下の発汗有無を確認

発汗が見られる場合、乾いたタオル等で押さえて拭いておく。

3 体温計を脇の下に挿入

脇を開いて体温計を上腕の前下方向から後上方向に45度の角度で斜めに体温計の感温部を脇の下の中央部に当たるように挿入する。

4 温度表示の確認（結果によっては再測定）

測定終了アラームが鳴ったら体温計を取り出し、温度表示を確認の上記録する。

測定値が低い場合、発汗による気化熱と表面温度低下を疑って再測定する。

5 対応

測定値が**37.5度**以上であれば、看守責任者等に報告の上、発熱区や休養区への移室を検討する。
また、新型コロナウイルス感染の可能性を想定すること。

血圧測定の手順（目安：130/85以下）

1 活動直後でないかを確認

必要に応じて10～30分程度の安静後に再開する。

測定部位の第一選択は上腕。
第二選択は下腿（膝から足首の間）。

2 測定体位のセッティング

椅子に座っている場合は、机上に血圧計を置き、上腕で測定を実施する。

横になっている場合は、上腕・下腿（膝から足首の間）での測定が可能。

衣服の「捲り上げで圧迫」が生じないように留意する。圧迫してしまう場合は脱いでもらう。

測定部位が「心臓と同じ高さ」となるように留意する。

腕帯を巻く強さは、「指が2本入る程度」、きつ過ぎず緩過ぎないように留意する。

腕帯内の「ゴムの中心線が測定動脈の直上」となるように巻く。

3 スイッチを操作して測定実施

測定終了したら腕帯を外して、測定値表示を確認・記録する。

平常時の値と大きく離れている場合は、意識・脈拍・呼吸を確認、腕帯を巻き直して再測定する。

4 対応

機器を変更しても測定不能が続いた場合、看守責任者等に報告の上、救急搬送（119番）すること。

脈拍測定の手順（目安：60～90回）

※ 血圧計及びパルスオキシメーターで測定
（訓練を行い，動脈触知での実測も可能だとより良い）

～基本的手順は血圧・呼吸の項を参照～

1 活動直後でないかを確認

必要に応じて10～30分程度の安静後に再開する。

2 測定体位のセッティング

血圧測定の手順2に同じ。

3 スイッチを操作して測定実施

測定終了したら腕帯を外して，測定値表示を確認・記録する。

平常時の値と大きく離れる場合は，意識・血圧を確認の上再測定する。

4 対応

機器を変更しても測定不能が続いた場合，看守責任者等に報告の上，救急搬送（119番）すること。

第一選択は橈骨動脈
（手首の内側）
（数・リズム・強さ・左右差）

呼吸観察の手順（目安：95%以上）

1 胸部や腹部の動きを観察

回数/分・深さ・リズム（目安：12～20回/分）

機器は用いずに目視で行う（観察を意識されると変動する可能性があるため）

～基本的には別の項目を測定中に観察する（体温・血圧）

2 パルスオキシメーターを指先に装着し、測定を開始

装着前に、対象の指先が冷えていないことを確認する。

指先が冷えている場合は、手をグーパーしてもらるか、手を握る等して温めてから装着する。

体動や振動は測定値に誤差を生じるため、可能な限り除去の補助を行う。

測定中は機器画面のPI値や脈拍数、脈波の表示も確認する。

3 スイッチを操作して測定実施

測定終了したら、測定値表示を確認・記録する。

平常値と大きく離れている場合は、装着のまま経過観察・再測定、呼吸・意識の確認。

4 対応

動脈血酸素飽和度が95%未満の場合は、看守責任者等に報告の上、救急外来又は救急搬送（119番）すること。

怪我・マニキュア・皮膚
が厚くなっていない指先を
選択

（基本は示指・中指）

意識状態観察の指標

意識状態の評価は下記のとおり。

意識レベル1（自発開眼がある）＝刺激しなくても覚醒している状態

- 大体意識がある状態だが、今ひとつはっきりしない
- 現在の時刻や場所、周囲の人を正しく認識できない
- 自分の名前、生年月日が言えない

意識レベル2（刺激に対して開眼する）＝刺激すると覚醒する状態

- 普通の呼び掛けで容易に開眼する
- 大きな声又は体を揺さぶると開眼する
- 痛み刺激を加えつつ、呼び掛けを繰り返すと辛うじて開眼する

意識レベル3（刺激しても開眼しない）＝刺激をしても覚醒しない状態

- 痛み刺激に対し、払い除けるような動作をする
- 痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめたりする
- **痛み刺激に全く反応しない**

項目 (単位)	略語	成人の基準範囲 (目安)
体温 (°C)	B T	36.0 ~ 37.0
血圧 (mmHg)	B P	s 130 以下 / d 85 以下
脈拍 (回/分)	P	60 ~ 90
呼吸数 (回/分)	R	12 ~ 20
酸素飽和度 (%)	SpO ₂	95 以上

